

広がる屋上農園

都市部、特に市街化区域内にある農地の減少は著しいが、一方で屋上農園が増加している。これに大きな刺激を与えることになったのが2006年春にスタートした「東京の中央（銀座）でミツバチが蜜を集める」銀座ミツバチプロジェクトの発足である。ハチミツを採るだけではなく、ミツバチのために花を植えるようになり、さらには野菜や稲をも栽培するなど行動を変容させてきた。中央区による屋上緑化への助成制度も活用して、松屋銀座、白鶴酒造、銀座ブロッサム等で農園による緑化がすすめられ、屋上農園、銀座ビーカーデンは広がってきた。

これが都心はもとより全国の都市へと波及し、ネットで検索してみるとあちこちのビルの屋上に農園が作られている。これらを集計した数字はみあたらないがけっこうな広がりを見せていることは確かだ。中には屋上農園での貸農園も少なくなく、都心の屋上で夕方

や週末に、会社の仲間たちや家族連れで農作業を楽しむ光景も珍しくはなくなった。

大手町に出現した森

話は一転するが、都心にある大手町の再開発がすすめられてき

観とも馴染んで調和が醸し出され、まさに「大手町の森」にふさわしい立派な森に育ちつつある。

ここに植えられた樹や植物は、千葉県の君津市で育成された森を、約2メートルの厚さで土壌ごと移植してきたそうで、コナラや

こうした丸ごと移植してくる手法の是非についてはいろいろの見方がある。しかしながらビル街の谷間に本格的な森が設けられ、そうした中に置かれたベンチでゆっくりくつろいでいるオフィス

レイや、木々をながめながら通りすぎていくサラリーマン等の姿を見ていると、森がこの空間に潤いと、これまでのビル街にはない大きな価値と確かな魅力を加えていることは否定しようもない。

都市と自然との共生

これまで都市は自然と切り離すことよって発展してきた。これまでも緑化がすすめられてはきたが、あくまでビルが主でこれを引き立て補完するものとして緑化があった。しかしながら銀座から広がりを見せている屋上農園も含めて、本格的な都市と自然の共生ともいうべき、自然に抱かれた都市という方向への流れが本格化しはじめていることを象徴する動きであるように受け止めている。



た。2014年4月に竣工した大手町タワーなるビルがあるが、その西側に「大手町の森」と呼ばれる広場が整備されている。ここは3600平方メートルの緑地であるが、すでに2年が経過して、樹も大きくなるとともに、周りの景

ケヤキ等の200本あまりの高木となった広葉樹を含めてさまざまな樹木とともに、草本類も植えられており、生物多様性にも配慮されている。しかも森となつている地表は、あえて起伏が作られ、高低差までつけられている。